

ご使用上の注意事項

フラッシュ開発ツールキット(以降、FDT と略します) V.4.09 Release 03 ご使用にあたり、下記の点をご注意お願いいたします。

1. ユーザ登録

CD-R に添付されている SupportInfo_j.txt をご参照の上、ユーザ登録してください。

2. 通信タイムアウト発生時の対応

(1)比較的性能の低いパソコン(低速、小容量メモリ)をお使いの場合や、バックグラウンドで別プログラムを実行している場合、以下のケースで、通信タイムアウトが発生することがあります。

- (a) アップロード機能を使用する
- (b) Flash 書き込み後に書き込みベリファイ機能を使用する

この場合は、baud rate の設定を下げてご使用ください。

(2)自動合わせ込み時に“Error No 15068: 応答データ受信タイムアウト”が出力される場合は、baud rate 設定を下げてご使用ください。

3. 1200bps baud rate の選択

シリアル通信スピードとして、下記デバイスのみ 1200bps が選択可能です。その他のデバイスでは 1200bps を選択しないでください。

(1)H8

38002F, 38004F, 38024F, 38102F, 38104F, 38124F, 38324F, 38327F, 38344F, 38347F,
38424F, 38427F, 38444F, 38447F, 38522F, 38524F, 38534F, 38537F, 38702F, 38704F

4. H8S/2172F デバイスの周波数設定

H8S/2172F デバイスは、動作周波数が PLL 回路により2逓倍されますが、FDT での逓倍条件で2逓倍を選択することができません。よって、PLL 回路で2逓倍された値を動作周波数として FDT の入力周波数条件に設定してください。

5. リードバックベリファイ

静電破壊等によりフラッシュへの書き込みが正常に行われないうち、ベリファイエラーが発生する場合があります。この場合、FDT が異常終了することがあります。

6. オートアップデートツール

FDT V.4.09 Release 03 ではサポートしていません。

7. R8C/2x デバイスのブランクチェック

(1)WS 版のデバイス

WS 版のデバイスはブランクチェック機能をサポートしていません。もしこの機能を実行した場合は、常に“Device is not blank”が表示されます。

(2) 量産版のデバイス

OFS レジスタ(0FFFFh 番地)の bit0 に"0"が書き込まれている場合、ブランクチェック機能を実行するとその後の通信ができなくなります。ブランクチェック機能は、OFS レジスタの bit0 に"1"が書き込まれている状態でご使用ください。

[対象デバイス]

R5F21206, R5F21207, R5F21208, R5F2120A, R5F2120C, R5F21216, R5F21217, R5F21218,
R5F2121A, R5F2121C, R5F21226, R5F21227, R5F21228, R5F2122A, R5F2122C, R5F21236,
R5F21237, R5F21238, R5F2123A, R5F2123C, R5F21247, R5F21248, R5F21257, R5F21258,
R5F21262, R5F21264, R5F21265, R5F21266, R5F21272, R5F21274, R5F21275, R5F21276,
R5F21282, R5F21284, R5F21286, R5F21292, R5F21294, R5F21296, R5F212A7, R5F212A8,
R5F212AA, R5F212AC, R5F212B7, R5F212B8, R5F212BA, R5F212BC, R5F212C7, R5F212C8,
R5F212CA, R5F212CC, R5F212D7, R5F212D8, R5F212DA, R5F212DC, R5F212E2, R5F212E4,
R5F212F2, R5F212F4, R5F212G4, R5F212G5, R5F212G6, R5F212H1, R5F212H2, R5F212J0,
R5F212J1, R5F212K2, R5F212K4, R5F212L2, R5F212L4

8. M16C/30P ワンタイムフラッシュデバイスでのデバイス保護オプション

"Automatic"または"Interactive"を選択した場合、動作は"None"を選択した場合と同一となります。

9. R32C デバイスの CRC ベリファイ

ブランク品でないデバイスに書き込みを行うと、CRC ベリファイエラーが発生する場合があります。この場合は、リードバックベリファイ機能を使用し、書き込みが成功したかどうかを確認してください。

10. R8C/3x,Lx,Mx シリーズの通信速度

E8a 経由での接続において、125kbps で通信することはできません。

11. RS-232C 接続時のクロック入力

RS-232C 経由での接続において、外部クロックのみをサポートしているデバイスが存在します。この場合は、内部クロックを使用せず、外部クロックをご使用ください。

[対象デバイス]

M16C(グループ名):56, 56D, 57, 5L, 5LD, 5M, 63, 64A, 64C, 65, 65B, 65C, 6B, 6C

12. USBドライバのインストール

本アプリケーションでサポートしている各種 USB ドライバが認識されない場合、下記の手順でドライバをインストールしてください。

(1) インストールディレクトリ上にある各種 USB ドライバ用の"dpinst.exe"をダブルクリックし、dpinst.exe を実行してください。

※dpinst.exe は Microsoft が提供するドライバパッケージインストールユーティリティです。

(a) E8a エミュレータ経由の書き込みの場合

•32-bit OS

C:\Program Files\Renesas\FDT4.xx\Drivers\for_32bit\E8a_USB

•64-bit OS

C:\Program Files\Renesas\FDT4.xx\Drivers\for_64bit\Hmse_USB

(b) E1/E20/E8 エミュレータ経由の書き込みの場合

•32-bit OS

C:\Program Files\Renesas\FDT4.xx\Drivers\for_32bit\Renesas_E_Series_USB

•64-bit OS

C:\Program Files\Renesas\FDT4.xx\Drivers\for_64bit\Renesas_E_Series_USB

(c) 上記以外の場合

•32-bit OS

C:\Program Files\Renesas\FDT4.xx\Drivers\for_32bit\Hmse_USB

•64-bit OS

C:\Program Files\Renesas\FDT4.xx\Drivers\for_64bit\Hmse_USB

注) 上記は全てインストール時のデフォルトディレクトリの例です。

- (2) [ユーザアカウント制御]ダイアログボックスが表示され、「認識できないプログラムがこのコンピュータへのアクセスを要求しています」「発行元がわかっている場合や以前使用したことがある場合を除き、このプログラムは実行しないでください。」と表示されますが、[許可]をクリックしてください。
- (3) [Device Driver Installation Wizard]が表示されますので[次へ]ボタンをクリックしてください。
- (4) 「このデバイスソフトウェアをインストールしますか?」と表示されますので、[インストール]ボタンをクリックしてください。
- (5) [Device Driver Installation Wizard]で[完了]ボタンをクリックしてください。

13. E1/E20 の複数接続

一台の PC に複数の E1 または E20 を接続している場合、以下の制限事項があります。
通信中に E1 または E20 の USB ケーブルを抜き差しまたは電源を ON/OFF(E20 のみ)した場合、FDT が通信エラーまたは異常終了することがあります。

14. M16C デバイスの 1 線式接続

1 線式接続が可能なデバイスについては、以下のテクニカルアップデートをご参照ください。

- (1) M16C/63,6C グループ: TN-16C-A186A/J
- (2) M16C/65,64A グループ: TN-16C-A188A/J

15. R8C デバイスの 1.8V 書き込み

本アプリケーションでは、R8C の一部デバイスについて E8a 経由での 1.8V 書き込みをサポートしています。ユーザ電源を供給する場合は、以下の点にご注意ください。

- (1) 1.8V～2.7V 未満を供給する場合
 - (a) GUI 操作
“電源供給の設定”ダイアログ上の“ユーザ電源の情報”->“1.8V”をチェックしてください。
 - (b) スクリプト操作
“Connect”コマンドのパラメータ(CONNECT VOLTAGE)に“User1.8”を指定してください。
- (2) 2.7V～5.5V を供給する場合
 - (a) GUI 操作
“電源供給の設定”ダイアログ上の“ユーザ電源の情報”->“1.8V”のチェックを外してください。
 - (b) スクリプト操作
“Connect”コマンドのパラメータ(CONNECT VOLTAGE)に“User1.8”を指定しないでください。

16. RX610 グループの User Boot Area 操作

“Generic Boot Device”での接続時、ID コードプロテクトが無効な場合は、接続完了後に User Boot Area の操作が無効になります。User Boot Area の操作を有効にするには、“Generic Boot Device”での接続時、ID コードプロテクトが有効な状態でデバイスと接続してください。

17. User Boot Area の消去許可

本オプションのデフォルトは“No”です。この場合、書き込みオプションで‘Automatic’が選択されていても User Boot Area の消去は実行しません。書き込み前に消去を実行したい場合は、本オプションの設定を“Yes”に変更してください。

18. インストール完了後のダイアログメッセージ

本アプリケーションのインストール完了後に「このプログラムは正しくインストールされなかった可能性があります」とメッセージが表示される場合があります。インストーラでエラーが発生していない限り、インストールは正常に完了していますので「このプログラムは正しくインストールされました」を選択してください。

19. 識別番号データのインデックス

Simple Interface Mode にて下記条件(1)～(4)全てを満たした場合、書き込みを実施した後に識別番号データのインデックスが+2 更新されます。

- (1) 識別番号書き込みが有効
- (2) “Download File”ラジオボタンを選択
- (3) “User / Data Area”に書き込みデータを指定
- (4) “User Boot Area”に書き込みデータを指定

以上